

## はじめに

バイオマスのエネルギーや製品としての利活用が求められる中で、地球温暖化防止や循環型社会の形成などを目的として「バイオマス・ニッポン総合戦略」が昨年12月に閣議決定され、今後のバイオマスの利活用の推進に関する国家戦略が策定されたことを背景に、バイオマス利活用技術の開発がさかんなベンチャー企業等が多い、カナダのバンクーバー地域を中心に調査した。

調査団としては、荘実行委員長（残念ながら、会社の仕事の為今回は参加出来なかったが）を軸にカナダ大使館の協力も得て、有意義な訪問先を選択出来た。

今回は、7日間の短い期間ではあったが、団員の皆様の協力により、訪問先での、活発な討論が出来、有意義な視察が出来たと思っている。

訪問先での詳細な報告は、後述にゆだねるとし、移動中に寄り道した場所などの印象をつづつてみる。

私は、隔年にバンクーバーで開催される北米最大の環境問題に関する、グローブ国際会議に、1998年、2000年、2002年と参加しているので、バンクーバーは今回4回目となる。

バンクーバー市は人口およそ55万人、周辺の10あまりの自治体をあわせて、グレーター・バンクーバーという都市圏を構成している。この都市圏の人口は約150万人で、東部のトロント都市圏、モントリオール都市圏について、カナダ第3番目の規模である。最初に訪問した5年前にくらべ、高層ビル群が目を見はる位増えている。又、2010年開催予定の冬季オリンピックに向け、更にビル群が増えていくものと思う。

イングリッシュ・ベイとバラード入江に囲まれた約400haの広大な森林公園がスタンレー公園で、公園のほとんどは、深い森に覆われている。又、海沿いに一周8kmほどのサイクリング道路と遊歩道があり、ここをゆったり散策するのが、市民のお気に入りの週末の過ごし方だと聞いた。確かに、サイクリングを楽しんでいる人々を、バスから垣間見ることが出来た。

ブリティッシュ・コロンビア州内のネイティブ・インディアンの各部族のトーテム・ポールが集められている広場が、トーテム・ポール広場である。クマやサケなどそれぞれの部族の成り立ちにちなんだ動物が独特の表現でポールに彫られていて、人々の自然への畏敬の気持や優しさが伝わってくる。

4回目にして、はじめてスカイトレインをまのあたりに見た。バンクーバーで開かれた交通万博をきっかけに約17年前開発されたと聞いた。走行は、車輪で行っているが、動力はリニアモーターでダウンタウンと郊外を結んでいる。

運転はすべてコンピューターで自動制御され、運転士、改札係など職員はいない。新交通システムとして今でも世界のトップレベルを維持しているとのこと。技術力の高さを認識した。

バンクーバー市の西端に約 2500 ha の広大なキャンパスのカナダ最大規模の総合大学のブリティッシュ・コロンビア大学がある。この広大なキャンパスに、植物園、博物館、美術館などが点在しており、さらにここにはビクトリアで客死した新渡戸稲造博士の功績を記念して作られた本格的日本庭園のある新渡戸記念公園もあるので、又の機会に是非、じっくりと見学したいものである。

バンクーバーで 1 番にぎやかな通りは、ロブソン通りで、トレンドをリードしている。ビジネスの中心は、グランビル通りとバラード通りの周辺である。街中はこの様に大きな通りで区画されているので、非常にわかり易く、団員の皆様もすぐ、1 人でも散策出来る様になったと思う。私は、美しい海や森とじっくり調和しているダウンタウンの街並みには、何回きても魅かれる。

さて、今回の訪問先のバイオ技術について、カナダ企業の展開にも強い意欲と熱意を感じたのは、私だけでなく、団員の皆様も同じであろう。

我が国においても「バイオマス・ニッポン」の実現に向けた基本的戦略も示されているので、今後具体的目標に向い、展開されていくと思うが、訪問先企業との意見交換等を通じ更なる発展を期待したいものである。

最後に、無事、所期の目的を達し帰国出来たことに感謝し、団員の皆様の今後の益々のご健勝とご活躍を祈り、挨拶に代える次第である。

社団法人 日本環境衛生施設工業会  
国際環境整備研究委員会 委員長  
調査団 団長 萩原 均